

会 議 録

NO.1

会議名	令和2年度第1回青少年問題協議会専門委員会		
事務局（担当課）	児童青少年課		
開催日時	令和3年2月16日（水）午前10時～午前12時		
開催場所	萌え木ホール		
出席者	委員	志波委員、大久保委員、浅野委員、木下委員、深澤委員、櫻井委員、古源委員、鈴木委員、六瀬委員	
	その他	欠席：大貫委員、倉持委員	
	事務局	鈴木児童青少年課長、前田児童青少年係長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 啓発リーフレットについて</p> <p>3 閉 会</p>		
提出資料	<p>○令和2年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会 次第</p> <p>○ 配付資料（事前送付）</p> <p>資料13 啓発リーフレット（案）</p> <p>（参考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前照会結果 ・子どもアンケート分析結果（未完） 		
会議結果	別紙のとおり		

<p>前田児童青少年係長</p>	<p>あと1、2分で開会の時間になるんですが、事前にお送りした資料で訂正がございまして、先にお伝えさせていただいてもよろしいですか。申し訳ありません。</p> <p>まず、リーフレット型のA3のもの、資料8と御案内していたんですが、12までお配りしていたことが後から発覚しまして、申し訳ありません、13でお願いいたします。</p> <p>それと、事前にお送りしました事前照会、御協力ありがとうございました。その事前照会にかかる結果についての問7なんですが、回答数を反対で記載してしまいました。申し訳ありません。当初の案のとおり、前年比較による内容というほうが回答数1、2の変更案のとおりコロナ禍を踏まえた内容というのが9という形で皆さんから御意見をいただいております。大変申し訳ありません。問2、問3については確認してそのままでしたので、そこだけ修正のほうお願いできたらと思います。</p>
<p>浅野委員長 前田児童青少年係長</p>	<p>そうですね。あれと思ったんです。</p> <p>令和2年度第1回青少年問題協議会の専門委員会のほうを開催させていただきたいと思います。</p> <p>本日はお忙しい中、また、緊急事態宣言というコロナが感染が拡大している中にはございますが、御参集いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>今日は、御欠席の連絡を大貫委員のほうからいただいております。倉持委員のほうはまだお見えになってないんですが、御連絡いただいておりますので、このまま進めさせていただきたいと思います。</p> <p>まず初めに、連絡事項が3点ございます。</p> <p>まずは、本会議、会議録作成のために録音をさせていただいておりますので、発言される前は御自分のお名前おっしゃっていただいから発言いただけるように御協力のほうお願いいたします。</p> <p>2点目なんですが、再三通知のほうでお伝えしていますように、新型コロナウイルス感染対策を行っております。今日も窓とか開けたり、皆さんの体温をチェックさせていただいたりしておりますが、その一環として、会議の回数の見直しも行わせていただいております。本来5月に開催する予定だった専門委員会が、本日第1回という形になっております。御協力いただきましてありがとうございます。</p>

<p>鈴木児童青少年課長</p>	<p>3点目でございますが、委員の交代についてです。本年4月以降、2名の委員が交代しておりまして、児童青少年課長より御紹介のほうさせていただきたいと思っております。皆様の手元には、本日、委員名簿のほう、本体会議のメンバーも含めた25人分の委員名簿をお配りしておりまして、このうちの16番の方と20番の方について、児童青少年課長のほうから御案内申し上げたいと思っております。お願いします。</p> <p>おはようございます。</p> <p>児童青少年課長鈴木と申します。日ごろから、青少年の健全育成事業につきましては、御理解御協力を賜りましてありがとうございます。着座にて進めさせていただきます。</p> <p>それでは、昨年度末の青少年問題協議会後ですね、北多摩東部地区保護司会と、東京保護観察所から選出委員に交代がございました。小金井市青少年問題協議会条例第3条第2項の規定により、新たに委員となられました方の任期は前任者の残任期間となります。本来は、今年度初めの開催となりますので、本日市長より委嘱状交付を行うものがございますが、感染防止の観点から委嘱式を省略し、失礼ながら、机の上にそれぞれ委嘱状をお渡しさせていただいております。御了承くださいませ。</p> <p>改めまして、御紹介させていただきます。新委員の方は、その場で結構ですので、簡単な自己紹介をいただけたら幸いです。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>初めに、保護司会より、鈴木様一言お願いいたします。</p> <p>皆さん、おはようございます。はじめまして、よろしく願いいたします。</p> <p>前任の齋藤さんが保護司のほうを退任されましたので、同じ保護司会から選出されました鈴木と申します。任期途中の交代で大変恐縮ではございますが、よろしく願いいたします。</p>
<p>鈴木児童青少年課長 六瀬委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、保護観察所より六瀬タカヒロ委員、お願いします。</p> <p>皆様おはようございます。</p>
<p>鈴木児童青</p>	<p>私、東京保護観察所立川支部という所で、保護観察官をしております、六瀬と申します。小金井市の担当をしております。昨年4月1日付で立川支部のほうに配属になりまして、保護観察官の仕事をさせていただいております。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。引き続き、皆様よろしく願いいたしま</p>

少年課長	す。
浅野委員長	<p>それでは委員長、開会のほうお願いいたします。</p>
	<p>それでは、委員長を務めます、小金井第一小学校校長の浅野と申します。よろしくお願いをいたします。</p>
	<p>ただいまから、令和2年度第1回となります小金井市青少年問題協議会専門委員会を開催させていただきます。</p>
	<p>本日の議題はですね、任期終了となる今年6月に配布をいたします、啓発リーフレット、年末にその案が送られてきているところがございます。先ほど御説明ありました資料13についてとなります。</p>
	<p>それでは、事務局からの説明をお願いいたします。</p>
前田児童青少年係長	<p>着座にて失礼いたします。事務局の前田です。</p>
	<p>まずは、配付資料の確認と今までの経過について、簡単に御説明をさせていただきますと思います。</p>
	<p>本日の配付物の確認です。事前資料として3点送付させていただきました。資料13の啓発リーフレット案、そして参考資料で2点、1月に皆様に照会させていただいた事前照会結果と、未完成ではありますが、御要望のありました、子どもアンケートの分析結果報告書の案となっております。</p>
	<p>本日机上に配付いたしましたのは、本日の次第と名簿、それと参考として青少健だより花みずきと、保護司会の広報誌のほうをお配りさせていただいております。本日、忘れも含めて不足等ございませんでしょうか。大丈夫ですかね。</p>
	<p>次に、今までの経過についてです。まず、令和2年3月の第2回青少年問題協議会の本体会議の開催が、新型コロナウイルス感染拡大を受け、中止とさせていただいたところです。青少年問題協議会の審議のテーマとアンケート結果を市の他の部署にも提供し、市のさまざまな施策の基礎資料として活用することについて、承認が必要となっていたため、全委員に対して、書面にて意思確認を実施、座長を除く全委員から承諾の意思を確認させていただいたところです。そのため、専門委員会の今年度の活動及び啓発内容については、子どもアンケートの結果をもとに、「子どもの権利」について広く保護者に啓発するためにリーフレットを作成すること、そのための作業を専門委員会で行うこととなりました。</p>
	<p>そして今年度、令和2年度なんですけど、当初は全3回程度、専門委</p>

員会の開催を考えておりましたが、年度初め、緊急事態宣言から始まりまして、現在まで、新型コロナウイルスの鎮静化は見られず、長期化が予想される事態となっております。令和元年度のアンケート実施時については、子どもの権利条例制定当初と経年比較をして、子どもの権利が守られているのか、子どもは実感しているのかというところをメインに、啓発していこうという考えのもと、アンケートを作成いたしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、子どもを取り巻く日常も一変してしまったというところを受け、啓発内容を変更したいと事務局では考えまして、本日の会議の前に、皆様に変更についてのご意見を照会させていただいたところです。

結果といたしましては、参考資料の事前照会結果にあるとおり、変更した方がよいとお考えの委員が多数であったことから、本日お示しのリーフレット案を事務局で作成いたしました。

資料13を、リーフレット案のほうをご覧ください。こちらが事務局の案となっております。本体会議でもともと審議のテーマとして承認されていたのが「子どもの権利に関する啓発内容」というところであったため、子どもの権利保障の外せない要件としての「子どもの意見表明権」という部分がある事を踏まえ、コロナ禍で高まる親子の対話の重要性を喚起するイメージで作成しております。

ただ、事前の照会でいただいたご意見の中には、社会変化に不安を感じている子どもの声を、保護者がきちんと受け止めて、エンパワメントしていくことが重要だというようなご意見もいただいたところです。

そこで、本日は、皆様に保護者の方に届けたいメッセージの方向性を整理していただき、それに見合うリーフレットの構成等についても御意見をいただければと思っております。

今現在のリーフレットの構成としては、事前に確認いただいているとは思いますが、「悩みの現状（相談できているか・どんなことを思っているのか）」を中心に、大切にされていると感じることが自己肯定感を向上させるような分析結果もありましたので、「話をきちんと受け止められることで、自分を肯定できるよ」ということが保護者にも分かるような紙面を作成しているつもりです。

だいたいグラフのコメントについては事務局の方で案を入れておりますけれども、裏表紙の啓発メッセージの部分については、先ほどお

<p>浅野委員長</p>	<p>伝えした方向性の整理がつかなかった関係で、中途半端で入っているような状況になっております。</p> <p>こちらは本日皆様から必要なキーワード出しなどしていただいて、完成していきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>御説明ありがとうございました。</p> <p>事務局から説明いただいたとおりですね、今日の会議の主たる内容としましては、啓発メッセージの整理と、リーフレット案について、御審議いただきたいというところです。</p> <p>特に、啓発メッセージについてはですね、事前のこのアンケート結果、先ほど訂正ありましたけれども、コロナ禍を踏まえた内容に変更したほうが良いという御意見が多数だったということですね。それをもとに、いったいどういったメッセージ性を持たせていけばいいのかというところからまず、御意見いただきたいですが、先ほど御説明いただいたところ繰り返しになりますけれども、メッセージの方向性の整理についてはですね、コロナ禍に置かれた子どもの不安の払拭に重点を置いてきたというのが1つの考えている方向です。もう1つは、本体会議の承認内容も踏まえて、コロナ禍にも必要な子どもの権利の啓発という部分を主眼にするのかということのようでもあります。どちらの視点も大事ではありますが、最初に申し上げた、コロナ禍に置かれた子どもの不安払拭に重点を置いていくかということ、どちらかというと、大人側からの働きかけが主になるものかなというふうに私は事前に予習した段階では捉えました。</p> <p>それから、2つ目の子どもの権利の啓発という部分を主題におくということは、文字通り、子どもが主体となる考え方といったところの微妙な違い、ニュアンスの違いはあるんじゃないかなというふうには思うんですが、まず、この啓発メッセージの方向性ですね、これがはっきりしたところで、先ほど御説明ありました、このリーフレットの裏表紙、まだ途中段階で示されております、左上のところ、「コロナ禍で大変な思いをしているのは大人だけではありません」というところのメッセージが、それをもとに整理されるということになりますが、まず、その啓発メッセージの方向性についての御意見を出していただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、お名前を言っていただいた後に御意見をお願いいたします。</p>
--------------	---

<p>志波委員</p>	<p>ではお願いします。</p> <p>志波です。アンケート、皆さん方に、事務局から照会したアンケートにありますように、コロナ禍を踏まえた内容に変更しようということで、それについては私も賛成です。</p> <p>この2つの項目、子どもの不安払拭を優先するか、子どもの権利の啓発を優先するかにつきましては、これは2番目の、子どもの権利の啓発を優先するというのがいいのかなと思っております。</p> <p>去年の4月ですかね、国連の子ども権利委員会というのがありまして、そこで、コロナ禍における対応についての宣言が出されております。国連でも当然のことながら、この点について、十分各国の状況を把握していい方向に持っていかうというふうに考えているようですので、やはり、この権利の啓発を優先すべきではないかなというふうに思っております。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>他の方いかがでしょうか。</p> <p>出席いただいている方も、それから時間も限られてますので、遠慮してると終わっちゃいますから、どんどん言ってください。いかがでしょうか。</p> <p>どうぞお願いします。</p>
<p>古源保委員</p>	<p>古源です。私もこの権利の啓発ということを重点にしたらいいと思います。コロナ禍というのは、1つの考えるきっかけとして、もちろん、その権利の啓発に関して進めていく中での大事なポイントにはなってくると思っております。その中で、子どもの権利というのは、子ども自身が認識するということももちろんなんですけれども、周りの大人がそれを認める、子どもは子どもなんですけれども、子どもも一人の人間として尊重されるというようなことを、このリーフレットの中から、保護者、それから地域の大人が読み取れるような、そういった啓発内容にしていったらいいのではないかと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今お二方からはですね、2つ目の子どもの権利の啓発といったことを主眼と置くメッセージの方向性についての御意見がありましたけれども、その他の方はいかがでしょうか。</p>

<p>深澤委員</p>	<p>同じ意見でもいいですし、また1つ目の不安払拭の方向性が重視されるべきではないかという御意見でもけっこうですが、いかがですか。</p> <p>はい、お願いします。</p> <p>深澤です。2つのことを見比べたときにですね、まず1つ目のコロナ禍における子どもの不安の払拭ということに関しては、いろんなところからいろんな情報が出ていると思うんです。こちらの青少年協議会の目的としては、子どもの権利の啓発が一番の目的かなと思いますので、2番目のほうの内容でいいかなというふうに感じました。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、お三方からですね、子どもの権利啓発の方向性ということで、その理由も合わせて御説明いただきました。私も非常によく分かりましたけれども、その他の方がいかがですか。特にその、1つ目の不安払拭におこうというのが、お声がなければですね、今お三方いただいたところで、子どもの権利の啓発という部分を主題にするといった方向性でよろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。うなずいていただきましたので、では1つ目の啓発メッセージの方向性としましては、コロナ禍にも必要な子どもの権利の啓発といった部分を主眼にするというところで、事務局としてもよろしく願いいたします。</p> <p>では、続いてですね、リーフレット案について協議を進めてまいります。事前にお配りいただきました資料13のリーフレットですけれども、お読みいただいたと思いますが、ここに書かれていますグラフですとか、あるいはそこに吹き出しでそのポイントをまとめたようなこともコメントで入ってますけれども、それも含めてですね、全体の構成も合わせて、具体的にここをこうしたほうがいい、このところはよく分からないという部分も合わせて御意見いただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>はい、お願いいたします。</p>
<p>大久保委員</p>	<p>大久保です。この表紙の部分なんですけれども、今主眼は子どもの権利の啓発ということになりましたけれども、やはり、その主題の中で、やはりコロナ禍だからこそという言葉はあっても構わないし、むしろ、そういうときだからこそ子どもの意見を聞いたりとかということが大切になってくると思うので、これは残しておいていただい</p>

	<p>いのかなと思いました。</p> <p>あと、この大きな、小学生という四角の下なんですけれども、「子どもの権利で大事なことは」という言葉で始まっているんですけれども、いきなり権利という、そういうことから入ると、ちょっととっつきにくいというか、ように感じまして、やはり先ほど、子どもの権利を聞くというのは、子どもの側からすると意見表明の権利があるからということだと思えるんですけれども、そういう何ていうんでしょう、部分から、言葉の、文章の始まりがあったほうが伝わりやすいんじゃないかなと思いました。具体的な文章は考えてないんですけれども、よろしくをお願いします。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>特に今、表紙の部分ですね。子どもの権利で大事なことは、という入り方よりは、子どもの権利、意見表明が必要であるといったようなところから入っていったほうが内容つながってくるんじゃないかというような御意見でしたけれども、似たような御意見でも、また違った視点からの意見でもいいですので、いかがでしょうか。</p>
<p>志波委員</p>	<p>はい、お願いいたします。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>いいですか。</p>
<p>志波委員</p>	<p>はい、お願いいたします。</p>
<p>志波委員</p>	<p>志波です。これちょっと事務局に質問なんですけれども、子どもの権利のアンケート、過去にとったアンケートでは、25項目あったんですね。そのうちから、これを見ますと10項目を取り上げてあるんですね。違う。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>はい。</p>
<p>志波委員</p>	<p>残ったのはどうなるのか。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>事務局の前田です。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>今、志波委員のほうから御指摘のいただいた25項目というのは、子どもアンケート、去年実施した子どもアンケートの設問数が25問というような御指摘かと思います。その中で、こちら、リーフレットに25問載っていない理由ということでよろしいですか。</p>
<p>志波委員</p>	<p>あれは、ちょっと私も忘れちゃったんですけど、全部載せるんじゃないかなかったです。あの中から選択するということでしたか。でしたら私も記憶が間違いです。</p>

<p>前田児童青少年係長</p>	<p>前年度行った青少年問題協議会の中で、アンケートの結果も第一次集計という形でお示しをさせていただき、これを全てリーフレットに入れていくと、ちょっとごちゃごちゃしてしまって、目を引くようにはならないので、その中からピックアップしたものをリーフレットのほうに入れていこうというところが発言として皆様にご覧いただいたところかなと思います。その結果、せっかく25問とったんだから、全てに対して分析結果の報告が欲しいというような御意見も合わせていただきまして、まだ完成してはいなかったんですが、青少年問題協議会のアンケート分析結果という形で、本日参考でお示しさせていただいたような、別冊をホームページなりに掲載をして、そちらも広く皆さまに結果としてはお伝えしていこうというところで、この紙面作りを行わせていただきました。</p>
	<p>どのグラフ、どの結果をとっていくかというのも、事務局のほうでも一度文書として1月に皆様にお示ししたところからも変更をさせていただいているところなんですけど、一応事務局のほうでも、先ほど皆さんから御意見いただいたように、子どもの権利を主眼に置いた啓発内容がよかろうというところで、それが保護者に伝わりやすいアンケートの設問というのはどれかなというところで、大きく3つ、悩みに対する子どもの意識と、裏面では子どもが思っていること、自己肯定感というような3つの区分に分けてそれぞれあまり結果に差がないものも含めて、これは年代とかでは差が出るものではないんだな、この年代だとかいうところで差が出るんだなというのが分かるようなところで選ばせていただいたというところです。</p>
<p>志波委員</p>	<p>答えになっていますか。</p> <p>私の記憶違いです。失礼しました。ついでにお聞きしたいんですが、この表題の「子どもの声を聴けていますか」という、その「聴けていますか」という表現が果たして文章としていいのかどうかというのがちょっと気になったのと、あとはこれ細かいことですけど、その下のほうの文章ですね、子どもの権利で大事なことは云々とあります、一番最後の「その実態を探るべく」これが重複してますので。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>はい。失礼いたしました。</p>
<p>志波委員</p>	<p>以上です。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>ありがとうございます。事務局です。</p>

<p>少年係長</p>	<p>私も、このタイトルが皆さんに刺さるものかどうか、自信がございません。皆さんからタイトル案についても御意見をいただけると大変助かります。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>タイトルについてはですね、このリーフレット全体の案について、御意見をいただいた後、また時間を少しお取りして皆さんの御意見頂戴したいと思いますので、タイトルは置いておいていただいて、リーフレット全般、あるいはその中のグラフ、あるいはコメント等については何か御意見等ございますでしょうか。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>ちょっと細かいことなんですけど。深澤です。この一番最初のタイトルのところの、3位のところのS Cって書いてあるじゃないですか。このS Cが分からないかもしれないです。</p>
<p>前田児童青 少年係長</p>	<p>そうですね。注記を入れたいと思います。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>つつい、我々もそうですけど、専門用語使っちゃうんですが、やはり一般の方が見たときに、S Cって何だって、おっしゃるとおりですよ。スクールカウンセラー分かんないですよ。そういったところは、他にもしありましたら、ぜひまた見直しをしていただければというところでございます。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
<p>志波委員</p>	<p>よろしいですか。志波です。裏面の「子どもが思っていること／自己肯定感」というタイトルの表の真ん中ちょっと上のほうに、右側ですか、『子どもが思っていること』について調べたものです。」というところで文章が書かれております。これは、どの吹き出しを指して、どの表を指していつているのかちょっと分かりにくいので、教えていただきたい。</p>
<p>前田児童青 少年係長</p>	<p>事務局です。まず、この裏面については、上下でそれぞれ上が「子どもが思っていること」、下が「自己肯定感」の部分になります。この、今御指摘のあった『子どもが思っていること』について調べたものです。」というところは、上の半面全ての総括としてイメージをして記載をしております。まずは、「現状に満足している子どもの割合が大きく、中学生になると忙しいと感じているようです。」は左一番上の「のんびりする時間が欲しいですか？」というところ。「学校での生活ではなく</p>

	<p>『疲れる』『だるい』『面倒くさい』など、心が元気でない理由で学校に行きたくないと思っている子どももいました。」というのは、学校に行きたくないと思ったことはあるのかと、行きたくない理由はなんですか、その他の理由として、上位3つ自由記述で多かったものを載せさせていただいているんですが、そういったことから記載をしています。</p> <p>「また」以降については右側の2つですね、「やることを親に決められるとどう思うのか」、「大人に心掛けてほしいのは何ですか」というところから記載をしております。</p> <p>分析の結果をというよりは、これを話すきっかけにしてほしいなというイメージで、事務局としては文章を考えたところです。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>今お聞きして思ったんですけれども、上の枠が「子どもが思っていること」下が「自己肯定感」ということであれば、例えば、その前のページの「悩みに対する子どもの意識」というのを四角1番とかで、「子どもが思っていること」四角2番って書いてこれの左上に持ってくるとかですね、次のページの「自分のことが好きですか」ってちょっと間空けてですね、「自己肯定感」四角3で左上に持ってくるというと分かりやすいですよ。そんなふうにしていただくと、大きなくくりが分かりやすいって今お聞きしてて思いましたので、御検討いただければと思います。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>実際には、これをカラーで印刷をかけるので、この背景の色で区分けはしようかと思っておりましたが、たしかにそのほうが分かりやすいかもしれませんので、検討させていただきます。ありがとうございます。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>それから、今お答えの中にありましたコメントについてもですね、この分析結果をばんと出すということよりは、おっしゃったように、要するにこれをもとに、家庭で話をさせていただく1つの切り口といいますかですね、きっかけにしてほしいというようなところはよくよく分かりましたので、そんなイメージでこのコメントも捉えていただければと思います。</p> <p>そのほかについてはいかがでしょうか。</p> <p>どうぞ。</p>
<p>古源委員</p>	<p>古源です。今のお話の中で、これ3つの部分に分けて、子どもの悩</p>

みに対しての対応と、それから子どもたちの思ってること、それから自己肯定感というふうにつながっていくということで、構成はともいいと思います。そんな中で、子どもの思っていることの中で、「大人に心掛けてほしいことは何ですか？」のこの問15ですよね、これに関してもう1つ作っていただいたアンケートの調査結果のこちらの17ページのほうに出てるんですけども、この文言の中に、その他のことが書いてあるんです。その他の中に、小学生はもっと関わってほしいとか、もっと優しくしてほしい、心配してほしいというような意見があると書いてありますし、中学生については、自分が正しいと思わないでほしい、決めつけないでほしい、自分の価値観を押し付けないでほしい、大人の立場を利用しないでほしいというような、子どもの生の声がね、あるので、これがぜひ、何かここに反映してくると、この次の自己肯定感のほうへのつながりになっていくのではないかなというふうに感じましたので、御検討いただけたらと思います。

浅野委員長

御意見いただきました。事務局としてはいかがですか。

前田 児童青
少年係長

事務局です。たしかに、グラフというのも視覚的に訴える部分ではあるんですが、子どもの生の声というところが、その子の書いた言葉で載っていると目を引くのかなというところも、そうかなと思いますので、ちょっと文字が多くなってしまふところと、グラフが小さくなり過ぎると読みづらくなってしまふ部分がございますので、紙面を調整しながらコメント、今、もくもくで出ているようなところに、その他ではこういう意見がありましたとか、そういった形で載せられるようであれば載せていきたいなと思います。

古源委員

ありがとうございます。

浅野委員長

あとはですね、御意見聞きながら思ったんですが、先ほど、ホームページに詳細なアンケート結果の分析、結果も載せるというふうにおっしゃいましたので、例えば、そこに矢印かなんかつけて、詳細はホームページここから入って参照みたいなものも、ちょっと色変えて入れていただくとぱっと目につきやすいかもしれませんね。たしかに、この限られたリーフレットの中にあまり文字量多くしてしまうと、とっつきにくくて読んでもらえないというのも、1つ案としてはありますので、御検討いただければと思います。ありがとうございました。

そのほかいかがでしょうか。

前田 児童青

事務局から伺いたいことがあるんですけども、これでも10問と

<p>少年係長</p>	<p>いう、25から比べると半分以下にはしてあるんですが、これでもちょっとグラフが多いかなと、個人的には感じながら作ってしまったんですけれども、その辺り、保護者目線というか、これを見た、もうちょっとポップにはする予定ですが、ちょっとグラフが多すぎるからここ削ったほうがいいとか、もしあれば、何問くらいに、何個くらいにしたほうがとかというのがあれば教えていただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>その点については、何か御意見ありますでしょうか。</p>
<p>志波委員</p>	<p>よろしいですか。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>はい。</p>
<p>志波委員</p>	<p>志波です。最終的にリーフレットはこういう感じになるんですね。ですからこういうふうに見るわけです。たしかにおっしゃるとおり、いっぱい埋まってるな。ちょっとこれは大変見にくい感じもしないこともないなといふふうに思うんです。とって、せっかくアンケートの中から必要なところを選択したんでしょうけども、ちょっと多くなって感じは、これはあくまでもイメージ。</p>
<p>前田児童青 少年係長</p>	<p>そうですね。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>深澤です。すいません、ここの「行きたくない理由は何ですか？」のグラフのところも消しちゃって、ここに声を入れたらどうですか。声というか、その他の理由みたいな感じで、友達とのこと、先生とのこと、勉強のこと、などが理由のようです、みたいな文章にしたらこのグラフは要らないのかなという気がします。</p>
<p>前田児童青 少年係長</p>	<p>そうですね。ありがとうございます。</p>
<p>少年係長</p>	<p>行きたくない理由、消してよろしいですか。文章を入れると、また文章もごちゃごちゃというところもあるので、全くゼロにするのか、そういったところで、その他の理由だけ残すのかとか、紙面については検討させていただきたいと思うんですが、やはり皆さんから見て多いなという印象であれば減らしていきたい。これは残したほうが絶対いいだろうというものと、これは削っても構わないだろうという、今の御意見のようなものがいただけると本当に助かります。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>お願いします。</p>
<p>古源委員</p>	<p>古源です。自己肯定感に関してなんですけれども、クロス集計の相関関係のグラフって、理解しにくいんですね。ぱっと見て分からない</p>

んですよ。これすごく大事なことだと思うんだけど、これを例えば、言葉で説明する形に置き換えるかということができのかなって、ちょっと感じました。私が理解が足りなくて、うまく読み取れないのか分からないですけれども。

あと、もう1つ、「自分のことが好きですか？」のところのコメントなんですけれども、前回の集計は、「好き」と「だいたい好き」それから「好きではない」なんか4つくらいあったんですよ。それを集計したので、数字が若干違うというようなことが書いてあったんですけれども、「好きですか」と聞かれて素直に「好き」って答えられる子が小学生で3人に1人、中学生で5人に1人というのは、これがちょっとあまりにも少ないんじゃないかと個人的には思っています。なので、ここのコメント欄のところで、平成30年度の国際比較調査をせっかく出すのであれば、世界の子どもの自己肯定感を出すときっと7割とかなんですよ。そういうことと比べちゃうというのは、逆に、書き過ぎちゃうのかなと思いつつ、もうちょっと自己肯定感を持てるような社会になったらいいなという願いを込めて、そんなことを考えました。

以上です。

ありがとうございました。

たしかに、左下の調査結果なんか見ても日本の子どもは自己肯定感が極端に低いという結果出てますよね。他国と比較してですね。それなんかは、たしかに、非常に説得力といいますか、訴えるものが大きいかなというふうに思いますので、御検討いただければということですね。

それから、今御意見いただいた中で、クロス集計についてなんですけど、私も同感でして、事前に送っていただいたの見て、白黒だからね、余計見にくいということがあるんですけれども、この、えーどれどれという感じで、実はこの下の2つのグラフはちょっと解読がしにくかったというのは、率直な感想です。ですから、リーフというのは、ぱっと手に取ってもらって、ぱっと目に入り込んでくるものが本来いいと思いますので、その辺も御検討いただければなというふうに思いました。

ありがとうございます。

浅野委員長

前田 児童青
少年係長

<p>浅野委員長</p>	<p>そのほかの御意見は。 どうぞ。</p>
<p>六瀬委員</p>	<p>六瀬です。「悩みに対する子どもの意識」というところで、ここの欄で、恐らく言いたいことというのは、相談したいと思わない子どもが3人に1人と、結構多いということと、御家族が相談先の大事な資源というところだと思うんです。相談した結果解決したかどうかという部分については、省略してもいいのかなと思います。または、年齢差に違いがないのであれば、ここを円グラフを1つにして、年齢差はなかったですというような書きぶりにすれば、少し表を省略できるのではないかなと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>大久保委員</p>	<p>すいません、よろしいでしょうか。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>お願いします。</p>
<p>大久保委員</p>	<p>裏面のというんでしょうかね、内側の面のなんですけれども、まとめとして、「子どもが思っていることについて、調べたものです。」というこの四角とか、先ほどの「自分のことが好きですか？」に関するこのコメントとか、文章で説明というか分析が書いてあることというのは、やはり、だらだらして読みにくいかなと思っていて、せっかくグラフのところにコメントがありますので、そちらにこの例えば、小学生の現状に対してというのは、そちらに置くと、ここの四角を整理できて、もうちょっとこのスペースが空くのかなとか思いました。</p> <p>あと、先ほどの「自分のことが好きですか？」という、古源さんがぜひ国際比較とおっしゃったところは、こういうところは、そちらとむしろグラフを両方載せることによって、5人に1人とか3人に1人というのも視覚的に分かるようになっていれば、この文章で書かなくても、あ、こんなにというのがかえって、心に入ってくるのかなって思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>その文章の量についての御意見いただきましたけれども、これについては、ほかの方も一見してどうでしょうかね。多いなという御印象でしょうか。あるいは、この程度であれば大丈夫なのかなとか、お考えありますか。いかがでしょう。</p>

<p>深澤委員</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>はい。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>深澤です。グラフはいっぱい出ていて、たしかに見たら分かるんですけども、恐らく親御さんたちはグラフを読み取るよりは、文字を読み取るほうが情報が入ってくると思うんですね。今のお母さまたちを見ていると。なので、文章自体はそんなに多いとは感じないんですけども、ただお母さんたちが読んで分かるような文章っていったらあれですけど、グラフがぼんぼんぼんとあっても、ぱっと見るだけで終わっちゃうと思うんです、恐らく。その分析結果としてどんと文章があるというのは、すごく親としては分かりやすいかなというふうには感じますので、私は多いかなというふうには感じないです。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>はい、どうぞ。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>それと、今、棒グラフと円グラフがいろいろありますね。それを少し統一したほうが、文章もそうですが、円グラフ、棒グラフという、ちょっと見にくいんじゃないかなと思います。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>これは事務局としてはいかがですか。棒グラフがいいという項目と、円グラフのほうが見やすいというような判断されて作ったと思うんですが、それについてはいかがですか。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>事務局です。歴年のリーフレットについては、子どもとその保護者に対して比較をしたアンケートをとり、それについての結果をリーフレットにまとめてきたことが、青少年問題協議会では多かったんですね。その場合は、大人の折れ線グラフと子どもの折れ線グラフか、子どもも小学生と中学生はこう思っているというような、ある程度比較が同じだったので、統一的なものできていたんですけども、円グラフのいいところは、ぱっと見たときに割合が分かりやすい。ただ、その中で小学生の4年生と中学1年生とかという小さな学年比較というのはグラフを例えば、6個7個作らなければいけないという部分で、紙面の大きさ上、今は便宜的に小学生の中では比較的变化がないものについては、小学生としてまとめて円グラフ化をしています。そういった意味で、そこまで細かい数字でなくて構わないということであれば、単一式というか、1つの答えを100%の割合で示せるものについてはグラフで統一、小学生もしくは全体、中学生のグラフで統一は可能かなと思います。ただですね、ここに今載せてない、表紙の、小</p>

<p>浅野委員長</p>	<p>学生中学生に聞きましたみたいな、複数回答のものは、円グラフ化はできないんですね。1人が2つ3つに丸を付けるというような設問があるので、そういったものについて掲載をする場合はこういった順位をつけたような表現をする、ランキングで表現をするか、行きたくない理由の部分も複数、大人に心掛けてほしいことは何ですか（複数回答）とか記載をしますけれども、こういったものは円グラフ化は難しいものにはなるんです。なので、グラフの種類を減らすことはできるんですが、全て同じにするのはちょっと難しいかなと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>「学校に行きたくないと思ったことありますか？」のグラフは、非常にこう、ぱっと見て分かりますね。「よくある」「ときどきある」というのは、これだけの割合が出てるんだなというところで、「よくある」のは一番色が濃いから一番下ですよ。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>そうですね。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>そうすると、やっぱり中学生がどうしても多いんだというのは、木下先生、御覧になっていかがですか。</p>
<p>木下委員</p>	<p>中学生。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>こういうもんですか。</p>
<p>木下委員</p>	<p>これ、「よくある」一番下にはできないんですか。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>はい。私の技術ではできませんで、印刷機、印刷会社さんのほうにはお願いしようとは思っております。</p>
<p>木下委員</p>	<p>そうしたほうが分かりやすいかもしれない。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>そうですね。私もおっしゃるとおり、ぱっと見たときに、あれ、小学生のほうが行きたくないことよくあるのかなって最初思っちゃう。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>そうですね。積み上げの場合は、その積み上がる順番に直すようにします。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>そうですね。グラフについてはそんなお答えでした。</p> <p>そのほか、そろそろこのリーフレット案については、お時間とさせていただきますたいですが、まだここで御意見、言いつばなしでもあと検討していただくのは、事務局のほうでも私どもでできますので。</p> <p>どうぞ。</p>
<p>六瀬委員</p>	<p>六瀬です。グラフの話が出たので、せっかくなので、ちょっと申し</p>

上げさせていただきますと、多分、グラフで、恐らくセンセーショナルな部分ってあると思うんです。今だと何か強調というか、ぱんとグラフだけ貼ってある状態なので、例えば、さっき話題になった「学校に行きたくないと思ったことありますか?」というところで、「よくある」というところについては、例えば、もうちょっと大きくですね、強調性を出したほうが、そんなにじっくり見る方って多くないと思うので、視覚的には入ってくるのかなと思います。例えば、円グラフであっても、かけさせるというか、強調したい部分だけ飛び出させるみたいな形にしたほうが、一般の方は見やすいのかなと思いました。

以上です。

浅野委員長

ありがとうございました。そのほかいかがでしょうか。

あとは、先ほど文章についての御意見いただきましたけれども、1つの案として、例えば、箇条書きでね、項目ごとに書くというのは、段落分けて書いていただけてますけれども、何行か続くよりは箇条書きにしたほうが、読みやすいというのはあると思いますので、その辺はまた御検討いただければと思います。

ほかよろしいでしょうか。では、たくさんの御意見を出していただきましたので、また、これを持ち帰って、リーフレット作成に検討反映していただければと思います。よろしく願いいたします。

では、先ほど少し、御意見が出たところで、後ほどと申しあげました、リーフレットのタイトルについてです。今でもこれまだ案の段階で、「コロナ禍だからこそ子どもの声を聴けていますか?」というタイトルなんですけど、これについて、これがいい、あるいはもう少しこういったものがいいというのがあればですね、これも御意見を出していただければと思います。お願いします。

大久保委員

すいません。

浅野委員長

はい、お願いします。

大久保委員

大久保です。この「聴けていますか?」の「け」というのがちょっと気になるのかなと思いますので、「子どもの声を聴けていますか?」というのだったら自然なのかなとか、あるいは「届けていますか?」とか、そういう形の文章だといかがでしょうか。

浅野委員長

もちろんここで決定するわけではありませんので、どんどん意見出していただければと思います。今「聴けていますか?」がいいんじゃないかという御意見でした。

<p>古源委員</p>	<p>そのほかいかがでしょうか。</p> <p>一番最初に、啓発メッセージの方向性をコロナ禍にて必要な子どもの権利の啓発という方向ということで固まりましたので、それも合わせると、このタイトルはいかがなところかというところも御検討いただければと思います。</p> <p>はい、お願いします。</p> <p>古源です。この1ページ目が一番やっぱり皆さんが見てくださるところだと思うので、タイトルも含めて、このデータの下の部分というのがすごく大事になってくると思うんですね。</p> <p>権利の啓発というところでいうと、子どもの声を聞くことは子どもの権利で大事なことなんだけれども、やっぱり子どもに5つの大事な権利があって、そのどれもが守られるべきなんだけれども、今回この状況だから、あえてその「子どもの声を聴いていますか？」というところに焦点を当てましたというようなことを書いていただくと同時に、この「聴く」というのが、門構えの「聞く」ではなくて、聞こうとして聞くということですよというような、ただ聞くだけではなくて、注意深く聞いたり、耳を傾けて聞くことなんだということをどこかに書いていただいて、その大久保委員がおっしゃったような、「子どもの声を聴いていますか？」という投げかけにしたらいいのかなと感じました。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>率直な疑問ですけども、こういうとき「聴く」ってこの字使うんですか。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>事務局です。</p> <p>この辺はですね、私も飲み込めていない部分があるんですが、まず、門構えの耳が中に入る「聞く」H e a rと、この耳偏の「聴く」L i s t e nの違いとして、門構えのほうは、音として入ってくるものという整理が子どもの権利の中ではありまして、ここの耳偏の「聴く」というのは、傾聴する、心に向けて真摯に受け止める、しっかり聞くというところで、この心という漢字の入っている「聴く」を使うことが多いんです。ただ、これも勉強をされた、子どもの権利について何かしらの話を聞いたことのある方には素直にこの漢字がという部分は私も理解するんですけども、一般的に見てこの漢字は常用漢字とし</p>

<p>志波委員</p>	<p>て使われているわけでもないのに、普通の門構えのほうがとっつきやすくだらうなというのは個人的には感じてはいるところで、この漢字を使うことも果たしてどうなのかなというのは思いながら使っております。</p> <p>志波です。私は、この傾聴の傾は耳を傾けて聞く、要するに、心で受け止めて聞くという意味でよく傾聴 L i s t e n i n g なんていうあれもありますけれども、そういう意味では、この場合には単に話を聞くということではなくて、やっぱり真剣に受け止めて聞きます、聞いていますか、という趣旨を込めているとすれば、これでいいんじゃないかなと私は思います。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>深澤です。聞くという漢字の話なんですけれども、あまり、こういうところで勉強していない人でも、何か違うというのが多分分かると思うんです。何が違うのかというところに関して、この下のところにただ聞くではなく、心を傾けて聞いてくださいみたいな感じの文章が入ると納得されるのかなという気がします。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>この、子どもの権利条約とか、一般的にこの字は公的な文書でも使うんですかね。常用漢字ではないですよ。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>事務局です。まず、子どもの権利条約は英文でできていて、その和訳になるんですけれども、その中には、意見表明権というような、発言、子ども主体の文章はあるんですが、子どもの声を聞くという書き方は特にしておらず、子どもの意見を受け止める、もしくは、子どもの、そうですね、子どもが発するものを大事にしようというような書き方で、受け手側のことが書いてないところはあります。子どもの権利条例というのを小金井市持っているんですけど、その中でも子どもの声を聞くというキーワードは実は出てこず、どちらかというと、子ども主体の書き方と、受け止めるくらいの書き方ではあります。</p> <p>なぜ、この「子どもの声を聴く」というフレーズになっていくのか、真剣に検討したことはないんですが、今回、この啓発で私が個人で思っていたのは、これは保護者向けの啓発なので、保護者、受け手から見たキーワードとして設定していく必要があるのかなと思って、受け手としては「声を聴く」というフレーズを使わせていただいているところです。</p> <p>分かりました。では、この「聴く」という字については、また最終</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>分りました。では、この「聴く」という字については、また最終</p>

	<p>的に皆さんのお考えもいただいた上ですね、決めていただければというところで、それ以外に、この「子どもの声を聴けていますか？」というタイトル、先ほど「聴けていますか？」がいいというような御意見もありましたが、このタイトル自体についてはいかがでしょうかね。</p>
<p>前田 児童青 少年係長</p>	<p>非常にうがった見方をしますとですね、これをぱっと見たときに、「子どもの声を聴けていますか？」って問われて、聞いてないでしょあなたというふうに、メッセージとしてはすごく伝わってくるんですけども、そういったところでよろしいでしょうかね。</p>
<p>前田 児童青 少年係長</p>	<p>事務局としては、それは不本意なところではあります、さらっとした文章というか、心に残らないフレーズよりはよいのではないかと個人的には思い、これに、仮をしております。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ドキっとするでしょうね、読んだ人はね。ドキっとするインパクトはすごくあると思います。</p>
<p>前田 児童青 少年係長</p>	<p>そうですね。それがいいのか、どうなのかというのは、皆さんの御意見を伺いたいなと思っております。</p>
<p>志波委員</p>	<p>志波です。最初に言いましたように、「聴けていますか？」の「聴けて」という言葉を日常的に使わない、言葉として使うことはあると思うんですが、文章でそういう文章あまり見たことないなど、どうなんでしょかね。むしろ「耳を傾けていますか」という意味を込めているわけですよ、これはね。「聴けていますか」だとちょっとさらっとし過ぎかなという気もするんですけども。ただ、「聴けて」というのもちょっと気になります。</p>
<p>大久保委員</p>	<p>大久保です。そうすると、「聴けていますか？」とか言うよりは「聴きませんか」とか「聴きましょう」とかそういうような、促すような声掛けのほうがいい感じでしょうか。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>あるいはですね、ちょっと視点を変えると、「子どもの声が届いていますか」というようなタイトルもありかなという気はしますけどもね。つまり、読んだ保護者の方に、本当にお子さんの思いが伝わっていますか、届いていますかという問いかけは、私はソフトな言い方でいいなど。「聴けていますか」というとやっぱり、あなた聞いてますか、聞いてないでしょって裏返しにどうしても思えちゃうんで。インパクトすごくあるんですけども、そこでふっと引かれちゃわないかなという印象は持ったんですけどもね。そこは、御検討いただければと思いま</p>

<p>大久保委員</p>	<p>すが。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。御意見として。</p> <p>大久保です。今、声というところなんですけれども、声というとなかなか声にできない思いというのがあって、先ほど先生もおっしゃったように、子どもの思いが届いているのかということ、という声よりは思いという言葉もどうなのかなというふうに今感じました。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>そのほかいかがでしょうか。</p> <p>深澤です。あとは、子どもが何を思っているのかという視点で書くとかという、聞くというよりは、例えばですけど、私保育園で働いているので、ちっちゃい子は恐らく、しゃべれないので、様子を見て親が察するしかないんですけれども、それも含めてということであれば、子どもの思いが届いていますかみたいな感じのほうの方が分かりやすいかもしれないですが、ただ、これが小学生中学生のアンケート結果なので、それだとお母さまはこっちの、しゃべるのが当然なので、こっちの文章のほうに分かるのかなという気がします。でも、小学生中学生でも、例えば、障がいを持っているお子さんとかだと、やっぱりしゃべれなかったりもするので、大半の人はしゃべれると思うんですが。子どもの様子がお母さんに届いてるかどうかということのベースで何か考えられないかなと思うんですけれど。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>学校の実態からいいますと、なかなか難しいところもあって、保護者と子どもとが家の中で意思疎通がしっかりできているかどうかということ、非常に難しい部分もあるんですけどね、それはコロナ禍に限らずですけれども、自分の思いを率直に親に伝えられる子もいれば、それが難しく、学校にもあるS Cスクールカウンセラーなどには言えるけれども、逆に例えば、保護者の方が同席すると黙ってしまうというケースが実はあるんですよ。ですから非常にそこの部分は難しいと思いますが、中学生なんかいかがですか、木下先生。</p>
<p>木下委員</p>	<p>1番、2番の回答をした子は非常にいいと思うんですけれども、その他の3、4ですよ。今言った、浅野先生が言われたのはそちらのほうの子どもさんの家庭もあるというようなところ、学校の実態としてはというようなところだと思うんですけれども。</p> <p>どうでしょうね。子どもも親に耳を傾けているのか、思いが届いているのか、そういうようなタイトルでインパクトがあるものという</p>

<p>浅野委員長</p>	<p>ころで、ぱっとは思い浮かばないですけども、どのような形のものをつけていただくのがいいかなと思いますけども。</p> <p>ありがとうございます。恐らくここで1つにはまとまりきれない…</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>受け止めよう子どもの思い、とかどうですか。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>そういうほうがいいのかもしれないですね。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>そういうほうがいい。明るいほうがいい。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>そうですね。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>それもね、いいとは思うんですけども、またこれも、あまのじゃくに考えると、受け止めようって言っちゃうと、それは言ってみれば押し付けになっちゃうんですよね。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>なるほど。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>だからそれよりは、「聴けていますか」とか「届いていますか」とちょっと考えさせるほうが、柔らかい印象はありますね。</p> <p>ちょっと、今出たことをもとに、いくつかに案を絞って、またそこで意見調整するということがいかがでしょうかね。</p> <p>よろしくお願いします。たくさんのお意見ありがとうございました。</p> <p>そろそろ、時間も、終わりの時間迫ってきているので、最後にもう1つ御意見いただきたいのが、この啓発メッセージのリーフレットで発信していくんですけども、今まで御意見出された中でも、幾つか出されていましたが、もう少しこういうことに触れてほしいということがあれば、あるいは、何かキーワード的なものですね、インパクトのあるキーワードのようなものをぼんぼんと入れ込むと伝わり方が違うんじゃないかとか、そういうことも含めて全体を通して御意見をいただければ、最後をお願いしたいんですけども。これまでのところで言いそびれたということも含めて、いかがでしょうか。</p>
<p>大久保委員</p>	<p>よろしいですか。大久保です。今、私たち子どもの権利ということ的前提で、このリーフレットを作っているんですけども、ちょっとその子どもの権利というところが遠くなっちゃっているかなと思っているので、この裏面のところに、四角で「小金井市子どもの権利に関する条例」というのが書いてあるんですけど、これをもうちょっと</p>

	<p>子どもの権利というところをもうちょっとクローズアップして、その前提があって、このリーフレットがあるんだよみたいなことが分かるようになるといいのかなと思いました。恐らく、コロナのところを今とりあえず大きくとってらっしゃるので、小さくなってるんだと思うんですけども。よろしくをお願いします。</p>
<p>志波委員</p>	<p>いいですか。志波です。今の太久保さんの意見に賛成なんですけど、当初、このアンケートの内容を検討している段階で、子どもの権利条例について、これを、どっかに入っていたのを一番上に持ってきて、とにかくまずは、子どもの権利というのがあるんですよというふうになってましたね。それが今回は、これでは全く消えちゃっているの、そういう意味では、太久保さん言ったように、どこかに子どもの権利、子どもには権利があるんですよ、これもう1回再確認してくださいというようなことを入れるの、いいのかなと思ってます。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございます。今回の啓発メッセージの方向性とも合わせてお二方から今そういった御意見をいただきました。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。</p>
<p>志波委員</p>	<p>はい、志波です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>はい、どうぞ。</p>
<p>志波委員</p>	<p>志波です。今回、コロナ禍の過程で一番変化してきたというものは、1つは巣ごもりとかその他、いろんな活動が制限されて、結構時間ができているんじゃないか、その時間は今は子どもたちはゲームとかそういうことに使われているかもしれないけど、コロナ以前は、とにかく部活があったり、何があったりということで、自分で要するに、じっくり考える時間というのがなかったのかなと。このアンケートの中には時間があるって書いてありますけれども、実際には、もの考えるそういう時間全部ゲームに使っちゃってるんじゃないかと思うんですけども、この機会に、新しい生活様式ではありませんが、時間をね、もっとうまく使って、使ってどうするかっていったら、やっぱり、振り返っていろんなことを考える、自分のことも考える、あるいは困っている人のことを考える、いろんな考えがあると思うんですけど、考えるということ、子どもたちにはやってほしいなという気はするんですよ。それをどういうテーマにするかと、ちょっと出てきませんが、これは、意見です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>例えば、リーフレットの裏面に入れます、これ見ますと左上の「コ</p>

<p>古源委員</p>	<p>ロナ禍で大変な思いをしているのは」というところのメッセージ的な ものですね、そういったようなことも盛り込めるんじゃないかなとい う……。</p> <p>そのほかはいかがでしょうか。</p> <p>古源です。この啓発は大人向けの啓発ということなので、コロナ禍 で大変な思いを大人はしていて、余裕のない、心の余裕のない日々を 過ごしていると思うんですね。やっぱりその大人にも私たちは寄り添 うような態度でないといけないと思うんです。その中で子どもという のは、大人より情報量が少ないし、周りにいる、本当に身近な、学校 の先生や家族にしか頼れないという結果も出てると思うんですね。そ の中で、この大人は、子どもにとって頼られる存在である、ある意味、 家族しかいないんだよ、先生しかいないんだよって。だから、子ども に心を傾けていきましようというような、そういう呼びかけがあつた らいいのかなと思います。基本にはこの子どもの権利を守るというこ とがあるんですけども、その方法がないと、権利ですよって言われ ても大人はなかなか、じゃあなんなのってなっちゃうかもしれないの で、子どもに寄り添うとかね、子どもとこの状況を共有するとか、そ ういったようなことで、子どもの住みよい社会ができていくというよ うな、そういうようなメッセージがあつたらいいかなと思います。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。</p>
<p>六瀬委員</p>	<p>六瀬です。このリーフレット自体は保護者向けに配布されるという ことで、すごく子どもの声を聞きたいけども、聞いていないという方 も多いと思うんです。その大切さは多分理解はしているけれども、実 際に具体的にどうしたらいいか分からないという方が多いと思います ので、ぜひ相談窓口みたいなのを、裏面にちょこっと出てますけれど も、ここをピックアップして、よりちゃんと保護者の方にも寄り添っ てますよというようなアピールといいますか、ができればいいのかな と思っております。</p> <p>以上です。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>大人の方にも寄り添ってというような御意見がお二方から今出され ました。</p> <p>そのほかいかがですか。</p> <p>配る対象としては、市内の全家庭になるんですか。</p>

<p>前田児童青少年係長</p>	<p>事務局です。去年の青少年問題協議会で皆さんのほうから御意見をいただいていたのが、その前年度までは小学生中学生全校生徒の保護者に向けて配布をしていたところですが、子どもの権利ということもあり、未就学児にも配布を広げてほしいというような御要望をいただいていたところで、現在、令和3年度の予算として獲得できるように頑張っているところです。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>そうしますと、その未就学児の保護者の方がこれを手に取って読まれたときに、どんなことをお考えになるかといったところも、もう1つ何か御意見等あれば、最後にお聞きしたいと思うんですけども、いかがでしょうか。</p> <p>1つ考えられますのは、兄弟関係で、上に小学生中学生がいない、一番上のお子さんが未就学児である場合には、小学生中学生ってこんなこと考えてるんだなってすごく参考になると思いますので、自分のお子さんも、自分の子どもも、これから小学生中学生になっていく上で、こういう悩みが出てくるのではないかなとか、あるいは、こういうところを親として気をつけていく必要があるんじゃないかというようなところの啓発にはつながっていくような気がいたしますですね。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>深澤です。私の保育園の保護者様を見ていると、情報がやはり偏っている感じがあるんですね。やっぱりインターネットとかですごく情報がとれる世の中ですので、結構いろんな情報を知ってらっしゃるんです。それで迷子になってるみたいなお母さんもいらっしゃるので、こういう子どもの権利ということに関しては、こんなのあるなんて知らないお母さんも結構いると思いますので、こういうのがあるんだなという啓発にはなるのかなというふうに感じました。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>そのほかいかがですか。全体通していかがですか。</p> <p>よろしいでしょうか。それではですね。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>事務局のほうで今日の会議の内容まとめだけさせていただきたいんですが、よろしいですか。</p> <p>ありがとうございます。まず、方向性としては子どもの権利のほうを優先していく紙面構成という形でさせていただきたいと思います。</p> <p>あと、グラフ、リーフレットの紙面についてなんですけれども、グラフが多い感じが見受けられますので、もう少し設問数を絞った形で、</p>

強調とかを使いながら、より見やすくしていけたらと思っております。

文字数については、多くないという御意見もありましたが、削らないでこのくらいのボリューム感でいかせていただければなと思っております。

それと、タイトルについては、いろいろ御意見ありがとうございました。ちょっと2、3個タイトル案を皆さんにお諮りしながら、最終的に決めていきたいなと思っております。

それとキーワードのほうとして、子どもの権利自体について、もう少し啓発のスペースを大きくするところと、コロナ禍の変化についても、文章の中で触れていくこと、あとは、大人もコロナ禍で困っているというところで、そういった大人、あとは子どもとどう接すればいいか、寄り添えばいいかというのが分からない大人に対して、相談窓口など、大人にも寄り添う内容だといいいんではないかという御意見。

あと未就学児のお子さん、今回拡大した場合、配布対象になりますが、今後の小学生中学生への展望、未来こんな感じかなというところを見ていただくのと、子どもの権利というものを知らない保護者も多そうだというところで、ここは一番最初にお伝えした子どもの権利の条例のほうをちょっと大きく権利の部分触れていければなと思っております。

今日いただいた御意見を基に、今後事務局のほうでリーフレット案も揉んで完成させていきたいなと考えているところなんですけど、修正のタイミングとしては2つございます。1つは、3月末、今日机上に封筒でお配りしておりますが、3月29日に本体会議のほうが予定されております。それより前のタイミングが1つ。本体会議でも少し御意見があるかなと思いますので、その後発行するまでの間という2回、修正のタイミングがございます。1回目については、予備日を設けておりましたが、方向性等々、皆さんの御意見だいたい同じ方向でしたので、書面にて皆さんに御意見を伺えればなと思っております。本体会議の後の2回目、4月以降についても書面で皆さんに御意見を伺うような形か、もしくはその後は、専門委員長、あと事務局のほうで一任いただいて、事務局と委員長で最終決定するような方向、例年はそちらなんですけれども、今回会議回数が少なかった関係で、どちらがよろしいかなというのを伺いたいなと思うんですけれども、例年と同じで構わなければ、本体会議の後は事務局等々に一任いただければ

<p>浅野委員長</p>	<p>ばとは思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>大丈夫そうですかね。ありがとうございます。</p> <p>そうしましたら、本体会議の前に1回書面で皆さんに新しくできたリーフレット案のほうを確認いただいて、タイトル案についてはその御意見の中でこちらで決めていくという形をとらせていただければと思います。</p> <p>以上です。ありがとうございます。</p> <p>それは、今御説明いただいた方向で今後進めていただければと思います。</p> <p>最後にですね、今後の日程について事務局から。今言ったこととどぶりますかね。</p>
<p>前田児童青少年係長</p>	<p>そうですね。ありがとうございます。</p> <p>日程について、今先走ってお伝えさせていただいております。予備日、3月1日を皆さんには予定しておいていただきましたが、そこは開催せず、次にお集りいただくのは3月29日月曜日朝10時から、市役所本庁舎の第1会議室というところで開催させていただこうと思っております、本体会議のほうに御出席いただければと思っております。その前にやり取りがあるのは書面のみという形になりますので、御協力いただければと思います。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>その後、本体会議でいただいた御意見や、皆様からの宿題がもしあれば、そちらのほうもリーフレットに反映し、あと、活動報告書ですね、そういったものの中で検討という形もありますので、その辺り、印刷業者のレイアウトの完成を待って、6月の任期終了までのタイミングでリーフレットと今回のアンケート分析結果の報告書、アンケート分析結果については、活動報告書にまとめて1冊でというのも考えてますので、別冊でできるのか、合同でできるのか、お任せいただきたいと思えます。こちらの分析結果まだ完成ではなかったんですけども、ここもうちょっと分析欲しいとか、クロス集計足りなそうじゃないというのがもしあれば、そういった御意見でも構いませんのでいただければと思っております。今後のスケジュールとして、任期6月まではこんな感じを考えておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>以上です。</p> <p>それでは、他に何か御発言等ありませんか。よろしいですか。</p> <p>では、第1回の専門委員会をこれで閉会といたします。御協力あり</p>

	<p>ありがとうございました。</p>
--	---------------------

— 了 —

令和2年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会

<次 第>

日 時 令和3年2月16日(火) 午前10時
会 場 萌え木ホール

1 開 会

2 議 題

(1) リーフレット(案)について

3 閉 会

配布物

(事前送付)

資料13 リーフレット(案)

参考 ・事前照会結果

・子どもアンケート分析結果(未完)

(当日配布)

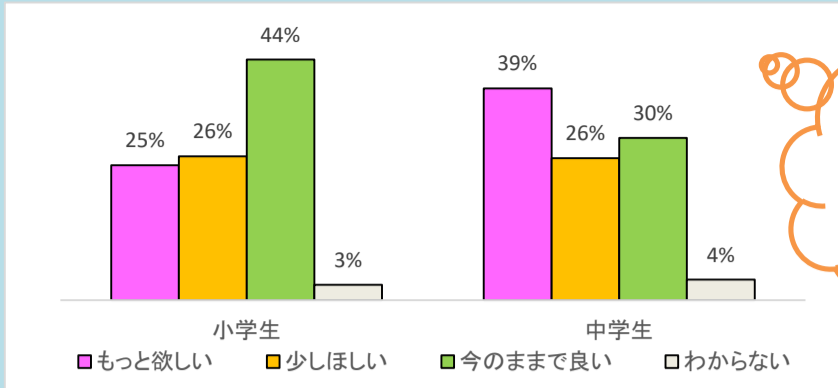
・次第

・青少年問題協議会専門委員会 委員名簿(改選分)

※ 裏面に「悩みに関する子どもの意識」があります。

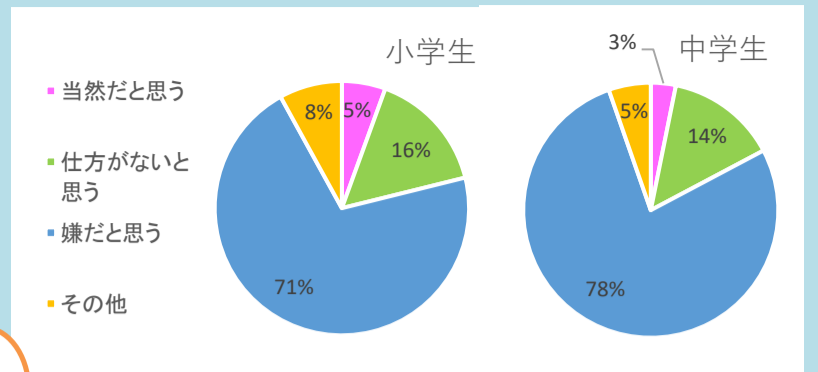
子どもが思っていること / 自己肯定感

○ のんびりする時間が欲しいですか？

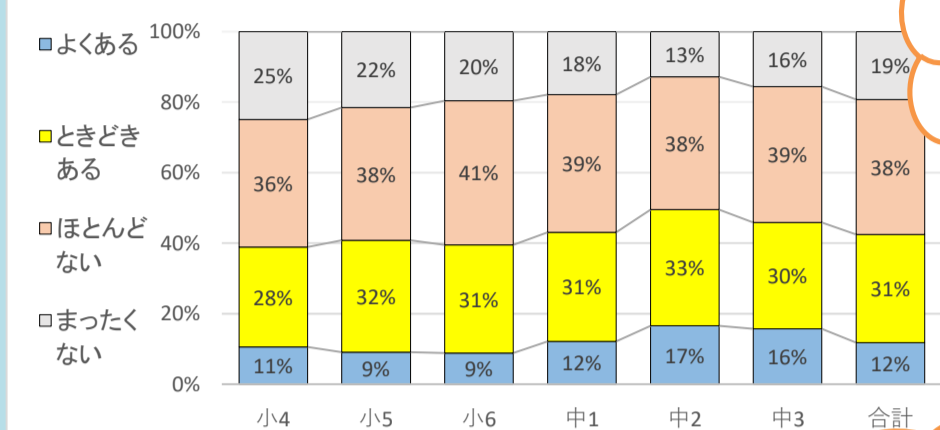


小学生の4人に1人、中学生になると3人に1人が自由な時間が全然足りないと感じています

○ 自分のやることや将来を親に決められることをどう思いますか？

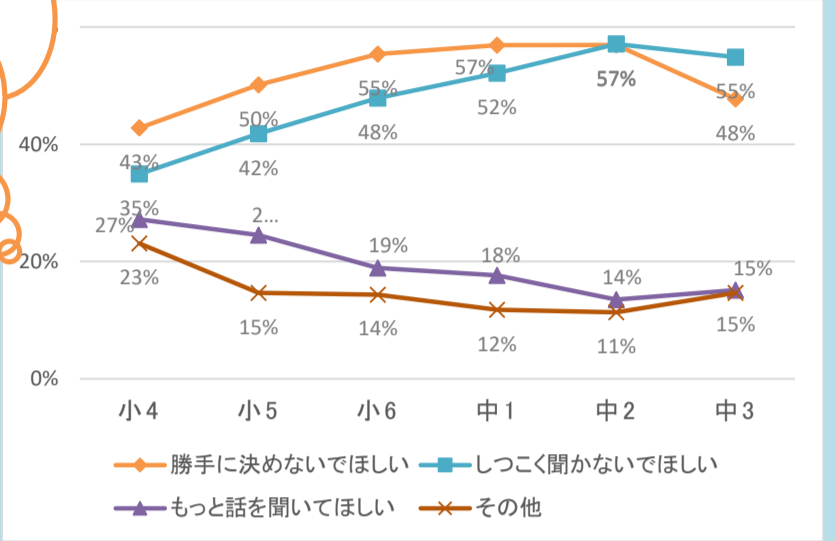


○ 学校に行きたくないと思ったことはありますか？

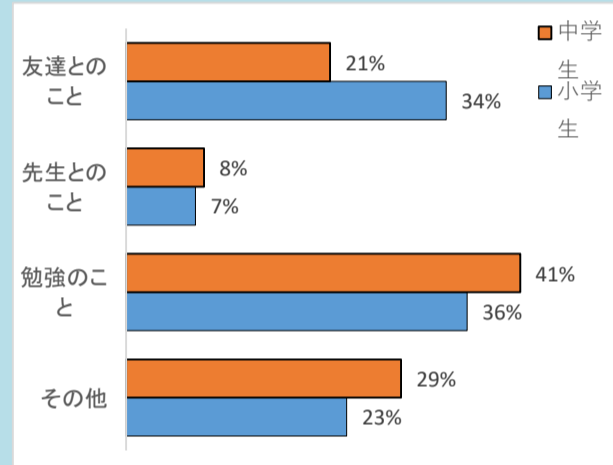


2人に1人は、勝手に決められることを嫌だと思っています。また、年齢が上がるにつれて、しつこく聞かないでほしいと思っているようです

○ 大人に心掛けてほしいことは何ですか？ (複数回答)



○ 行きたくない理由はなんですか？



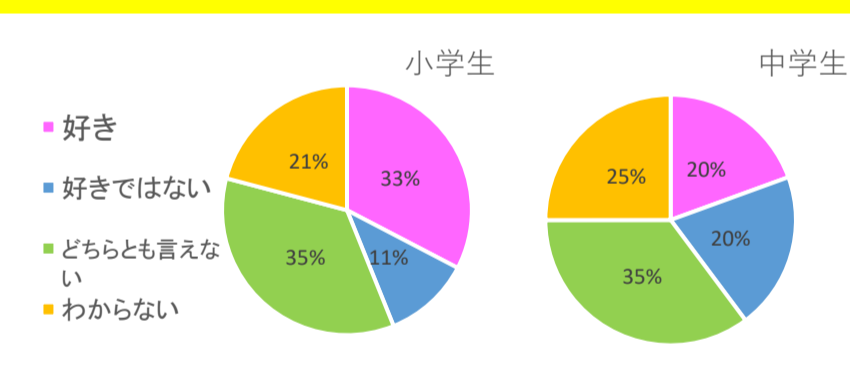
○ その他の理由 (上位3位)

- 小学生**
- ・ 疲れている、だるい
 - ・ 面倒くさい
 - ・ 嫌なこと・行事がある
- 中学生**
- ・ 面倒くさい
 - ・ 寝不足
 - ・ 部活のこと

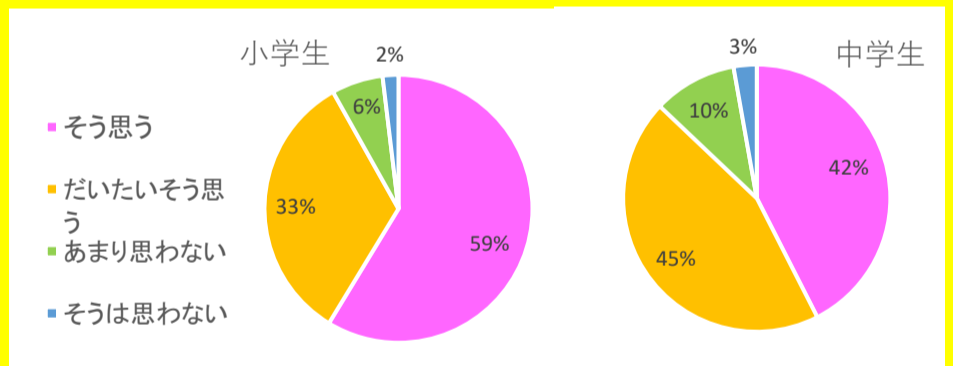
○ 「子どもが思っていること」について、調べたものです。

小学生は現状に満足している子どもの割合が大きく、中学生になると忙しいと感じているようです。また、学校での生活ではなく、「疲れる」「だるい」「面倒くさい」など、心が元気でない理由で学校に行きたくないと思っている子どももいました。また、自分のやる事や将来のことを親に勝手に決められるのは嫌だと感じている子どもは7割以上に上っています。ついつい口を出してしまったり、決めつけたりしていませんか？子どもも自分で色々考えています。

○ 自分のことが好きですか？



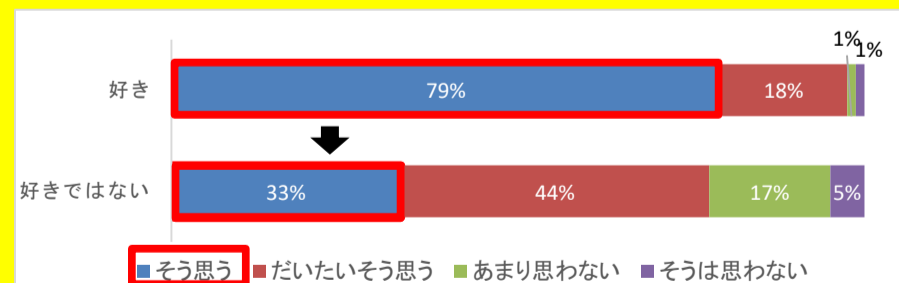
○ 自分は周りの大人から大切にされていると感じますか？



小学生の3人に1人、中学生の5人に1人は自分を好きだと思っていますが、小学生の10人に1人、中学生の5人に1人が自分のことが好きではないと思っています。平成30年度の若者の国際比較調査では、日本の若者は、他国と比べて「自分が他者の役に立っているか（自己有用感）」が自己肯定感との相関が強いことが指摘されています。

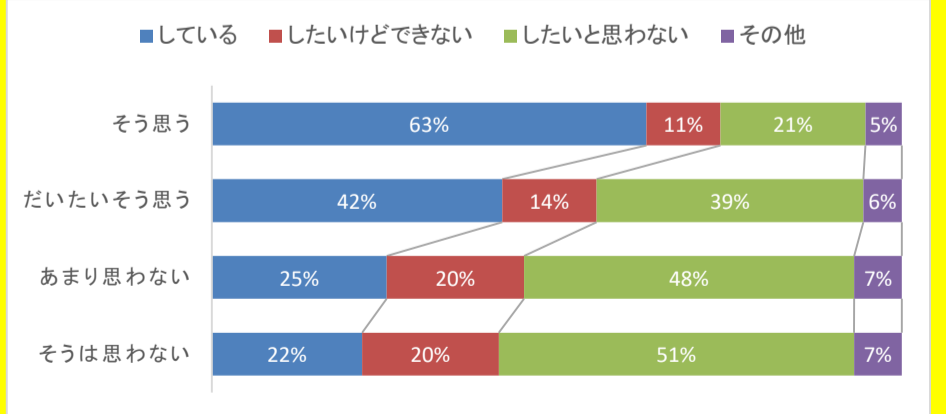
9割前後の子ども達が肯定的ですが、学年が上がるにつれ実感が減るようです。大切に思っていることを、言葉で伝えていきますか？

○ 「自分のことが好き」と「大切にされていると思う」の相関関係



周りから大切にされていると実感できる子どもは、自分を肯定的に捉えることができている子が多いようです。また、悩みができた時に相談するかも、大切にされていると感じているかどうかと相関関係がありました。

○ 「大切にされていると思う」と「悩みを相談できている」の相関関係



○ お子さんと「会話」していますか？

子どもの権利に関する条例が制定される前に調査した15年前と比較すると、自分が好きだと答えた子どもは小学生で3ポイント上昇しているのに対し、中学生はほとんど差がありませんでした。のんびりする時間が欲しいかという質問では、中学生はあまり差がなかったものの、小学生では今のままでいいと答えた子どもが8ポイント減り、代わりに今より自由時間を希望する子どもが8ポイント増えていきます。このことから、小学生は10年前に比べ、忙しいと感じているようです。2020年はコロナにより、学校や塾、習い事もいかに、家族で過ごす時間が増えた家庭もあったと思います。自宅でのんびりしながら、会話のキャッチボールを楽しみましょう。

コロナ禍で大変な思いをしているのは大人だけではありません

2020年、世界は新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ、私たちは誰も体験したことのない1年を過ごすことになりました。

緊急事態宣言における外出自粛や一斉休校による生活の変化、マスクや手洗い、ソーシャルディスタンスを意識する行動の変化、テレワークなど勤務が変化した家庭もあり、今までとは違う生活サイクルに戸惑った方も多かったのではないのでしょうか？

外出先で人目が気になったり、生活スタイルが変化したことで自宅も落ち着かなく感じたり、毎年行っていた旅行に行けなかったり、先行きの見えない不安や気疲れ、ストレスを、大人の私たちも少なからず感じています。

では、子ども達は不安やストレスを感じたりしていないのでしょうか？
たしかに、子どもは適応する力があります。

(学校の様子など挿入)

大人は買い物や通勤を禁止される訳ではありません。子どもは

子どもたちの声も聞いていますか？

資料13

○ 困ったり、つらい時、誰に相談しますか？(複数回答)

	小学生	中学生
1位	家族(71%)	友達(63%)
2位	友達(46%)	家族(50%)
3位	先生・SC(15%)	その他(14%)
4位	その他(9%)	先生・SC

※ 小金井市の小・中学校の児童・生徒へのアンケートから

子どもの権利で大事なことは、「子どもの声を聴く」ことです。
「子どもの声」と聞いて何を連想しますか？

「お菓子が食べたい」「ゲームがしたい」「おもちゃが欲しい」
もちろん、そういう「今」への要求もありますが、大人と同じように子どもでも、日々たくさんのことを考えています。

小金井市では、子どもの権利に関する条例を制定してから10年が経過しました。小金井市の子どもたちは今何を考え、どう感じているのか。子どもの権利の視点からその実態を探るべく、その実態を探るべく、アンケート調査を実施しました。

<アンケート調査方法>

- 実施時期=令和元年10月
- 対象=全市立小学校(小4~小6)2,738人、全市立中学校(中1~中3)2,031人
- 回答数=小学校(児童2,588人)、中学校(生徒1,902人)
- 回答率=児童:94.52%、生徒:93.65%

小金井市青少年問題協議会 (令和3年6月発行)

小金井市ホームページ <http://www.city.koganei.lg.jp/>
市政→審議会等→審議会等の一覧→福祉・健康・医療に関する審議会→青少年問題協議会から、過去に発行されたリーフレットも読めます。



○ 小金井市子どもの権利に関する条例

小金井市では、子どもの権利を保障し、子どもの健全な成長を願って、「安心して生きる権利」「自分らしく生きる権利」「ゆたかに育つ権利」「意見を表明する権利」「支援を受ける権利」などを、家庭・育ち学ぶ施設・地域で保障することを求めた「小金井市子どもの権利に関する条例」を制定しています。

○ 相談窓口(子どもの権利に関する相談リンク集)

子どもに関して、いろいろな悩みを相談できる各種窓口があります！

「市ホームページ→子育て・教育→子どもの権利」から検索！

小金井市
子どもの権利
に関する条例



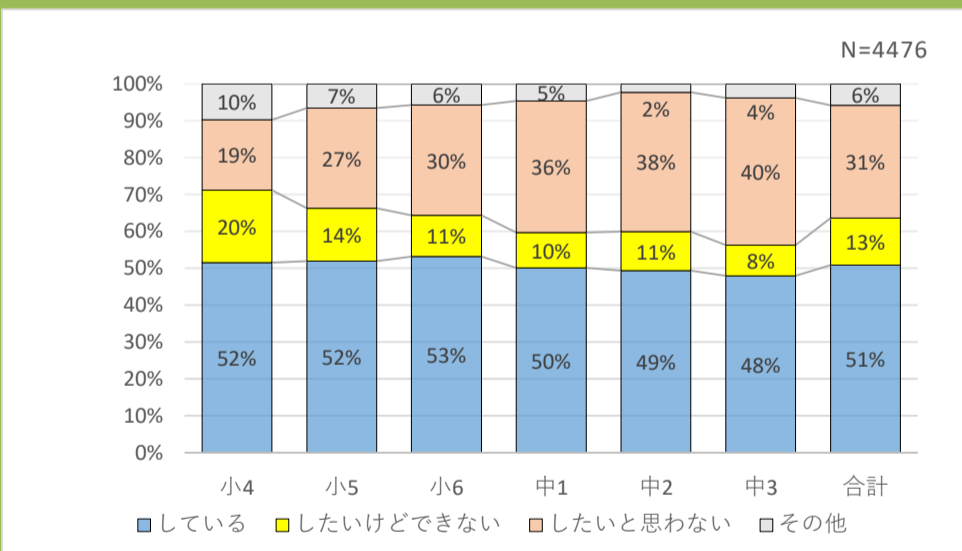
相談窓口

子どもの権利
に関する相談
リンク集



※ 裏面に「子どもが思っていること/自己肯定感」があります

○ 悩みがあるとき、相談できていますか？



「悩みがあるとき、誰かに相談していますか？」における「その他」回答者の自由記載内容

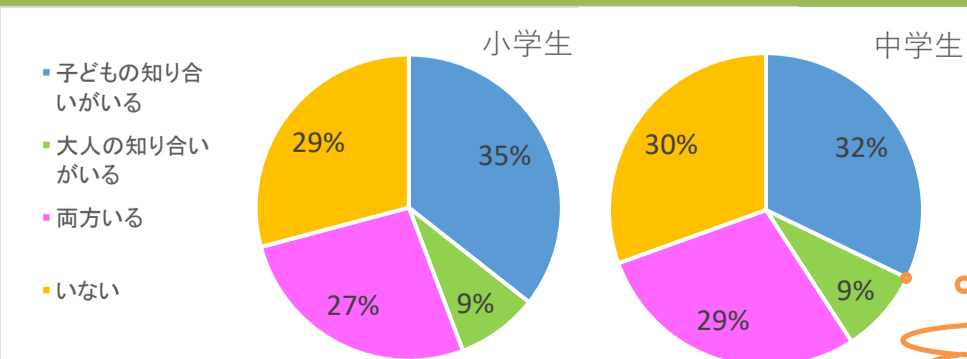
小学生

- ・言いたいけど言えない
- ・相談内容による
- ・(相談)したい時にできない
- ・(相談)しても無駄
- ・(悩みなどが)ひどい時は相談する。

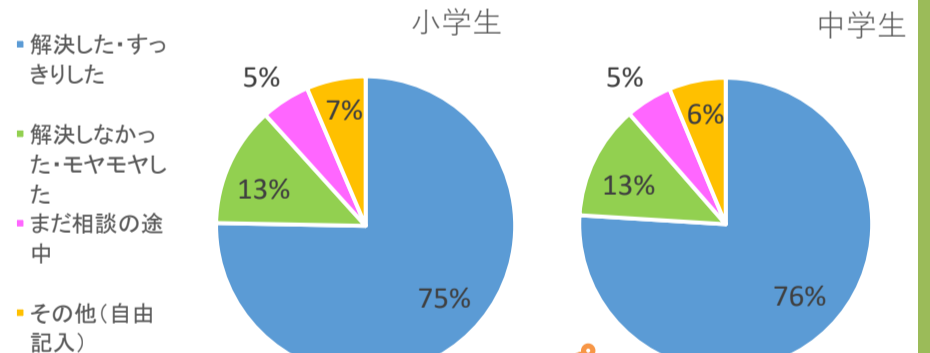
中学生

- ・誰にも言わない、誰にも相談しない
- ・自分(自己解決)
- ・あまり誰にも相談しない

○ 学校や家族以外の友達や、相談できる知り合いがいますか？



○ 相談した結果、どうなりました (相談したことがある人のうち未回答を除く)



相談した結果については、
年齢差はないようです

コロナ前に子どもの悩みに関する実態について調査しました。

どの学年でも2人に1の子は悩みを相談していますが、6人に1人は「したいけどできない」と感じているようです。また、中学生になると「したいと思わない」子どもが増えるようです。

相談先では、年齢が上がるにつれ友達を選ぶ子どもが増えますが、中学生くらいまでの子どもにとって、行動範囲は広くなく、家庭と学校以外の人との関係性にも年齢差はありませんでした。子どもにとってやはり「家族」は大切な相談相手になっているようです。

「したいと思わない」と感じている子どもは全体で3人に1人いました。

お家のお子さんも、もしかしたらそう感じているかもしれません。大切なことを伝えるのも大事ですが、朝食や夕食など日常の中で、意識してお子さんの悩みに気がつく機会を増やしませんか？

3割の子どもは、家族や学校以外に相談できる知り合いがいないようです